

# 令和7年度 印西市民アカデミーだより 第14号

## 講座14：市政について学ぶ 《藤代市長による講話》

11月21日（金）、印西市役所農業委員会会議室で、藤代健吾市長を講師に迎え、「印西市のまちづくり—未来をともに創る—」をテーマに学びました。

市長は、印西市の特徴として「快適な住環境」「都市と自然の調和」「大型商業施設の集積」「アクセスの良さ」「災害リスクの低さ（北総台地の強固な地盤）」を挙げました。

講話では、豊かな自然と都市に共存する、注目度の高いデータセンター（DC）産業にも触れました。印西市は土地や電力インフラ、首都圏への近さなど条件が整い、多くのDCが立地。固定資産税収入は教育・福祉・インフラ整備に貢献しています。一方で、駅周辺など生活圏に近いエリアでの施設建設に対し、市民目線でのまちづくりを求める声があり、新たなルールづくりを検討中とのことでした。

さらに、次の時代に向けたキーワードとして「日本一の子育て・教育」を掲げ、保育所送迎ステーションや、イオン連携の全天候型子ども施設（印西市・白井市で共同運営）、アフタースクール開設などの新規事業を紹介。教育分野では「教育ビジョン（仮称）」策定し、日本一のデジタル教育、不登校支援、義務教育学校の創設などを進める、との説明がありました。

まちづくりのもう一つの柱は「職住近接のまち」。東京圏ベッドタウン競争から脱却し、仕事と暮らしを両輪で創出する政策を目指しています。

最後に、市長は地域を歩いて感じた課題として「担い手不足」「若者の参加減」「コミュニティの希薄化」を挙げ、時代に合った社会教育や住民自治の再構築が必要と強調。公共施設を「理由がなくても立ち寄れる場所」にするなど、新しいコミュニティづくりへの意欲を語りました。結びに、市民アカデミー生へ「学んだことを生かし、今後ぜひ、地域で活動してほしい」とメッセージを送りました。市長の強い思いと政策への決意が、アカデミー生にしっかり伝わった講座でした。

